

# まい 埋やちよ

No. 38

千葉県八千代市  
埋蔵文化財通信  
2017. 11. 15  
(平成 29 年)

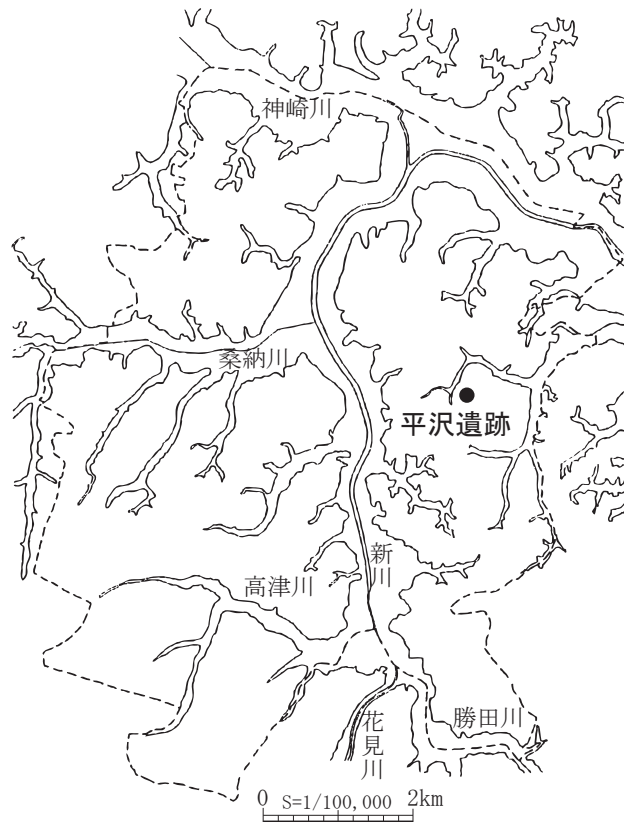
## 特集 平沢遺跡出土土器から見る弥生時代の交流

### はじめに

考古学に関わる展示は全国様々な所で開かれ、関連本も数多く出版されています。しかし、考古学に携わる人々がどのような方法を使って歴史を描いているのかを知る機会には案外少ないのではないのでしょうか。そこで、今回は弥生時代後期（約 1800 ～ 2000 年前）の集落跡が発見されている八千代市<sup>ひらさわ</sup>平沢遺跡出土の弥生土器を対象として考古学に関わる人々が出土遺物をどのように扱って歴史を描くのか、その一端をお見せしたいと思います。

### 平沢遺跡の概要（第 1 図、第 1 表）

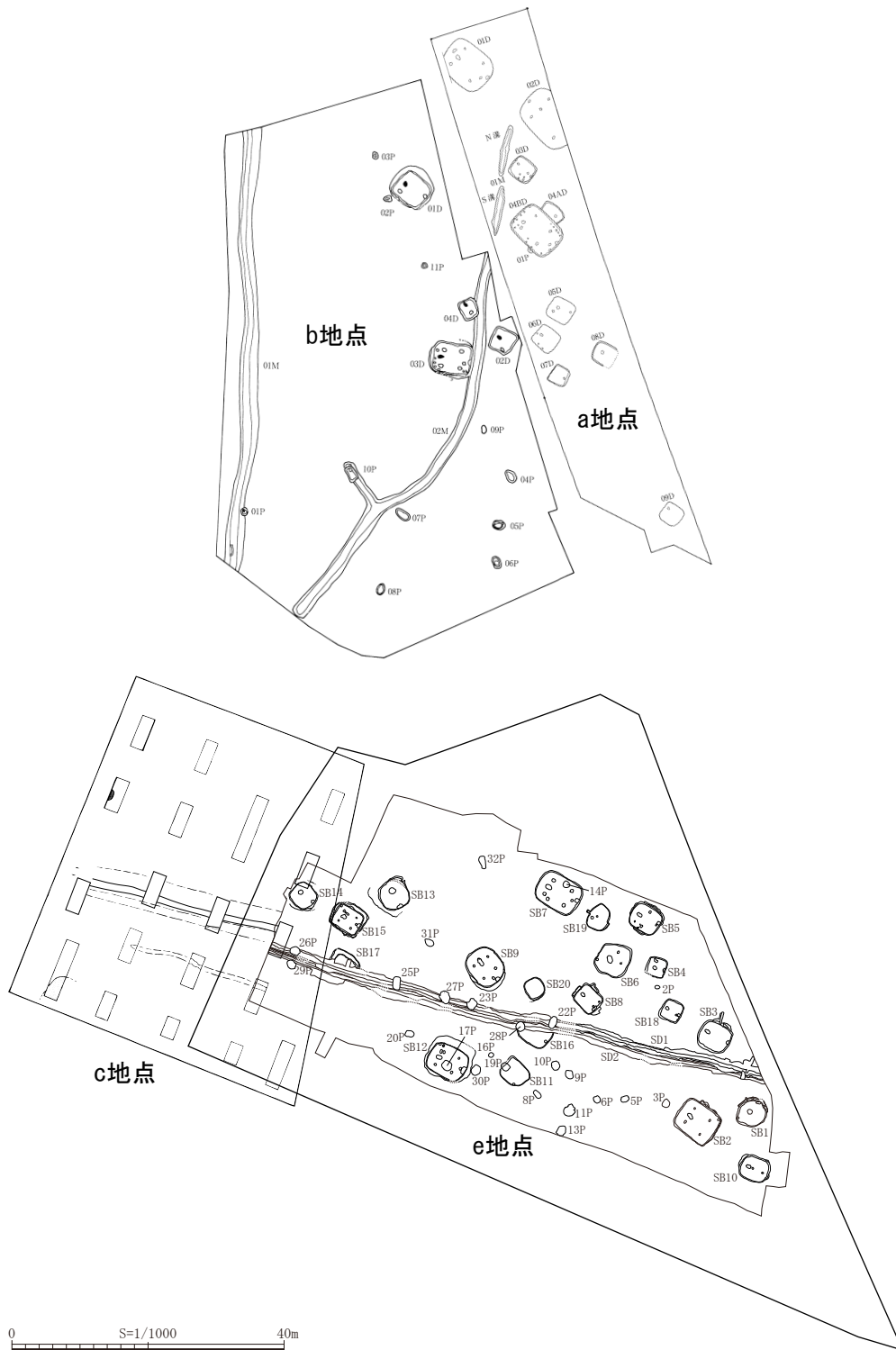
平沢遺跡は勝田台駅から市道を北に車で 15 分ほど行った所にあります。調査は現在までに 5 地点で行なわれ、旧石器時代のナイフ形石器、縄文時代前期～後期に位置づけられる土器、中近世に位置づけられる溝跡や土坑、砥石などが出土しています。このように、様々な時代のものが確認されている平沢遺跡ですが、そ



第 1 図 平沢遺跡の位置

第 1 表 平沢遺跡の調査概要

地点名	調査形態	調査期間	検出遺構	出土遺物	文献
a 地点	本調査	H7. 4. 10 ～ 6. 30	弥生時代（後期竪穴建物跡 10 軒・土坑 1 基）、時期不明（溝跡 1 条・土坑 1 基）	縄文土器（田戸下層式・条痕文系・黒浜式・阿玉台式・加曾利 E 式・称名寺式・堀之内 1 式）、縄文時代石器（石鏃）、弥生土器（後期）、弥生時代土製品（紡錘車）	八千代市教育委員会編 2013『千葉県八千代市 平沢遺跡 a 地点・殿台遺跡 a 地点』
b 地点	本調査	H22. 1. 28 ～ 4. 21	縄文時代（ピット 2 基）弥生時代（後期竪穴建物跡 4 軒・ピット 1 基）、奈良・平安時代（溝跡 2 条、ピット 8 基）	旧石器時代石器（槍先形尖頭器・剥片）、縄文土器田戸下層式・条痕文系・黒浜式・諸磯 a 式・浮島式・興津式・五領ヶ台式・阿玉台式・加曾利 E 式・称名寺式・堀之内式・加曾利 B 式）、弥生土器（後期）、弥生時代土製品、弥生時代石器（砥石）	八千代市教育委員会編 2011『千葉県八千代市 平沢遺跡 b 地点』
c 地点	確認調査	H23. 7. 6 ～ 7. 20	縄文時代（土坑 1 基）、弥生時代（後期竪穴建物跡 2 軒）	弥生土器（後期）	八千代市教育委員会編 2013『千葉県八千代市 市内遺跡発掘調査報告書 平成 24 年度』
d 地点	確認調査	H25. 7. 16 ～ 7. 23	なし	縄文土器（加曾利 E 式）、縄文時代土製品（土製円盤）、古墳時代後期～奈良・平安時代土器	八千代市教育委員会編 2015『千葉県八千代市 市内遺跡発掘調査報告書 平成 26 年度』
e 地点	本調査	H28. 1. 6 ～ 6. 15	弥生時代以前（土坑 1 基）、弥生時代（後期竪穴建物跡 20 軒、中近世（溝跡 2 条、土坑 24 基）	旧石器時代（ナイフ形石器）、縄文土器（加曾利 E 式、堀ノ内 1 式など）、弥生土器（後期）、弥生時代土製品（紡錘車）、弥生時代石器（鏝石）、中近世石器（砥石）	八千代市教育委員会編 2017『千葉県八千代市 平沢遺跡 e 地点』



第2図 平沢遺跡で検出された遺構の位置

の中心をなすのは弥生時代であり、弥生時代後期に属する竪穴建物跡が現在までに36軒発見されています。

平沢遺跡出土土器の特徴 (第5～8図)

平沢遺跡から出土した土器には多様な特徴が

見られます。先に結論を言ってしまうと、こうした土器を特徴ごとに分類することで地元の土器とそうではないもの、さらには製作された地域も明らかになり、そこから弥生時代における交流の歴史を垣間見ることができるのです。

それでは、平沢遺跡 e 地点で出土した土器を

第2表 平沢遺跡出土土器の特徴

分類名\特徴・系譜	文様	特徴的な混入鉱物	系譜
a類	附加条1種 <sup>ふかじょう1しゅ</sup> , 単節縄文 <sup>たんせつじょうもん</sup> , S字状結節文 <sup>Sじょうけつせつもん</sup>	なし	地元
b類	附加条1種 (a類の附加条1種よりも整然としている)	大粒の石英 <sup>せきえい</sup> が多量	茨城県域か栃木県域からの搬入
c類	文様は施されない	なし	東京湾沿岸域の模倣(地元)
d類	単節縄文, S字状結節文, 附加条3種 <sup>ふかじょう3しゅ</sup> が見られ, 幾何学的な文様構図が特徴的	シャモット	東京湾沿岸域からの搬入



3. 単節縄文 LR <sup>たんせつじょうもん</sup>

1. (無節R) 2本を、更に左撚りに合わせた原体です。この単節を使った文様が最も多く見られる縄文です。

4. 単節縄文 RL <sup>たんせつじょうもん</sup>

3の(単節LR)とは逆に撚ったもの。写真を横にすると、条がLRと同じように見えますが、節の見え方が違ってきます。

17. 附加条1種 <sup>ふかじょういちしゅ</sup>

3の(単節LR)の原体の撚り合わせの溝(条)に沿って、1の(R)の原体(白い縄)を巻き付けたもの。関東の弥生時代にも使用されます。

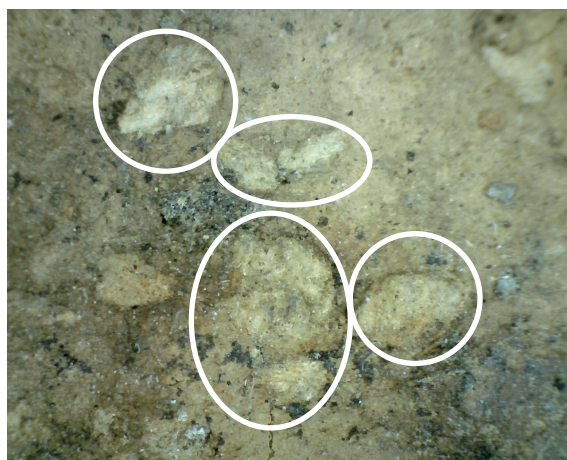
20. 結節縄文 <sup>けっせつじょうもん</sup>

この場合は、3の(単節LR)の端部に結び目を作った原体。結び目の方向で、S字状、Z字状の文様が現れます。これはS字状です。

第3図 縄文の種類 (『縄文土器篇』(発掘ってなかに第3号)より転載)



石英



シャモット

第4図 土器に含まれている石英とシャモット (デジタルマイクレスコープ 60倍で撮影)

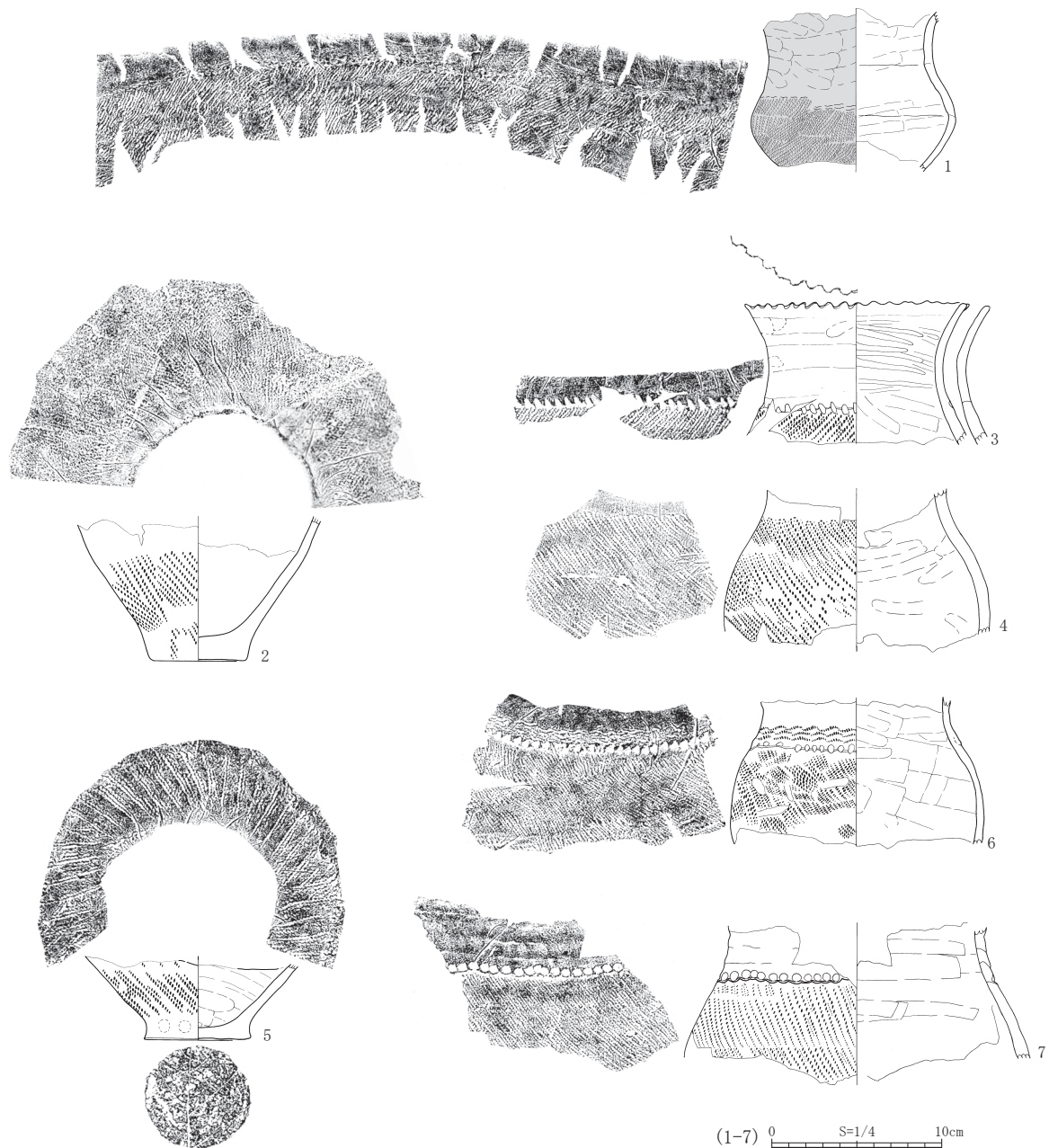
中心にその特徴について詳細に見て行きたいと思えます。

平沢遺跡出土土器を文様や粘土に含まれる鉱物などによって分類すると、第2表で示したように4つに分けることができます。

まずは、文様について見て行きましょう (なお、縄文の種類については第3図で解説しているのでそちらをご覧ください)。一見してc類

はその他とは異なることがわかります。なぜなら、c類には文様が施されていないからです。一方、d類も附加条3種<sup>ふかじょう3しゅ</sup>(×状になるよう附加条1種にもう1つ縄を巻き付けたもの)が見られる点でa類やb類とは異なっています。a類とb類には附加条1種<sup>ふかじょう1しゅ</sup>が見られる点で共通していますが、詳細に観察すると、b類の附加条1種はa類とくらべて整然とした印象を受けま





第5図 平沢遺跡e地点出土土器a類

す。

次に土器に含まれている鉱物に注目してみま  
しょう(第4図)。石英<sup>せきえい</sup>という鉱物は各類の土  
器に含まれていますが、とくにb類では大粒な  
石英が多量に含まれており、一見して他類と異  
なることがわかります。一方、d類にはシャモツ  
トというのが見られます。実は、このシャモツ  
トというのは鉱物ではなく、土器を細かく砕い  
て粘土に混ぜ込んだものなのですが、d類以外  
には見られません。

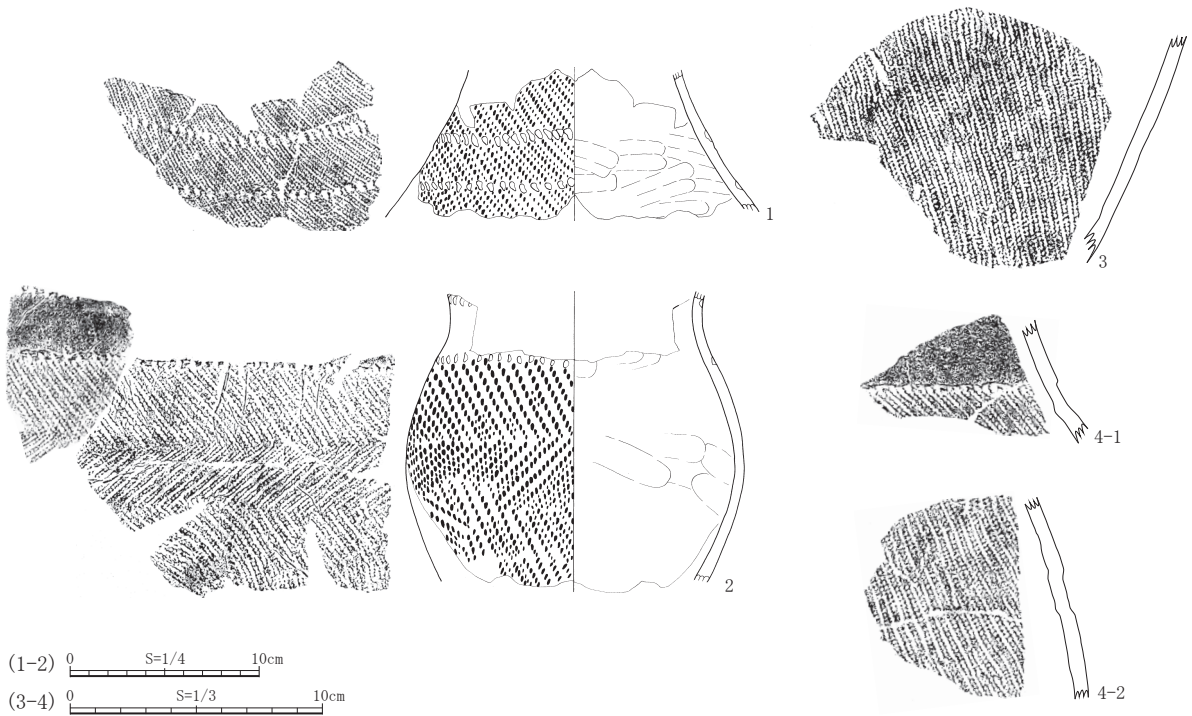
#### 分類結果と地域間交流

以上のように、平沢遺跡から出土した土器は  
4つに分けられました。それでは、こうした違  
いは何を表しているのでしょうか。

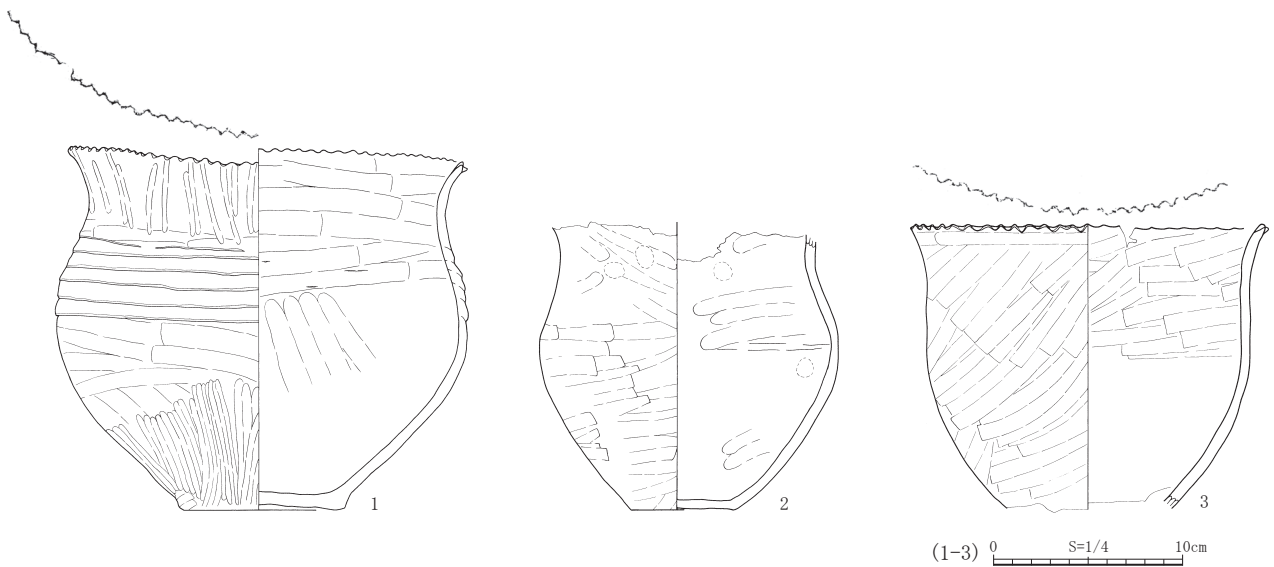
まずa類に目を向けてみましょう。八千代市  
を含む印旛沼沿岸域の弥生時代後期の遺跡から  
出土する土器はa類が圧倒的に多く、このこと  
からa類は「地元」の土器と言えるでしょう。

次にd類を見てみましょう。実はd類のよう  
な特徴を持つ土器は東京湾沿岸域で多く見られ  
ます(第9図)。したがって、d類は平沢遺跡





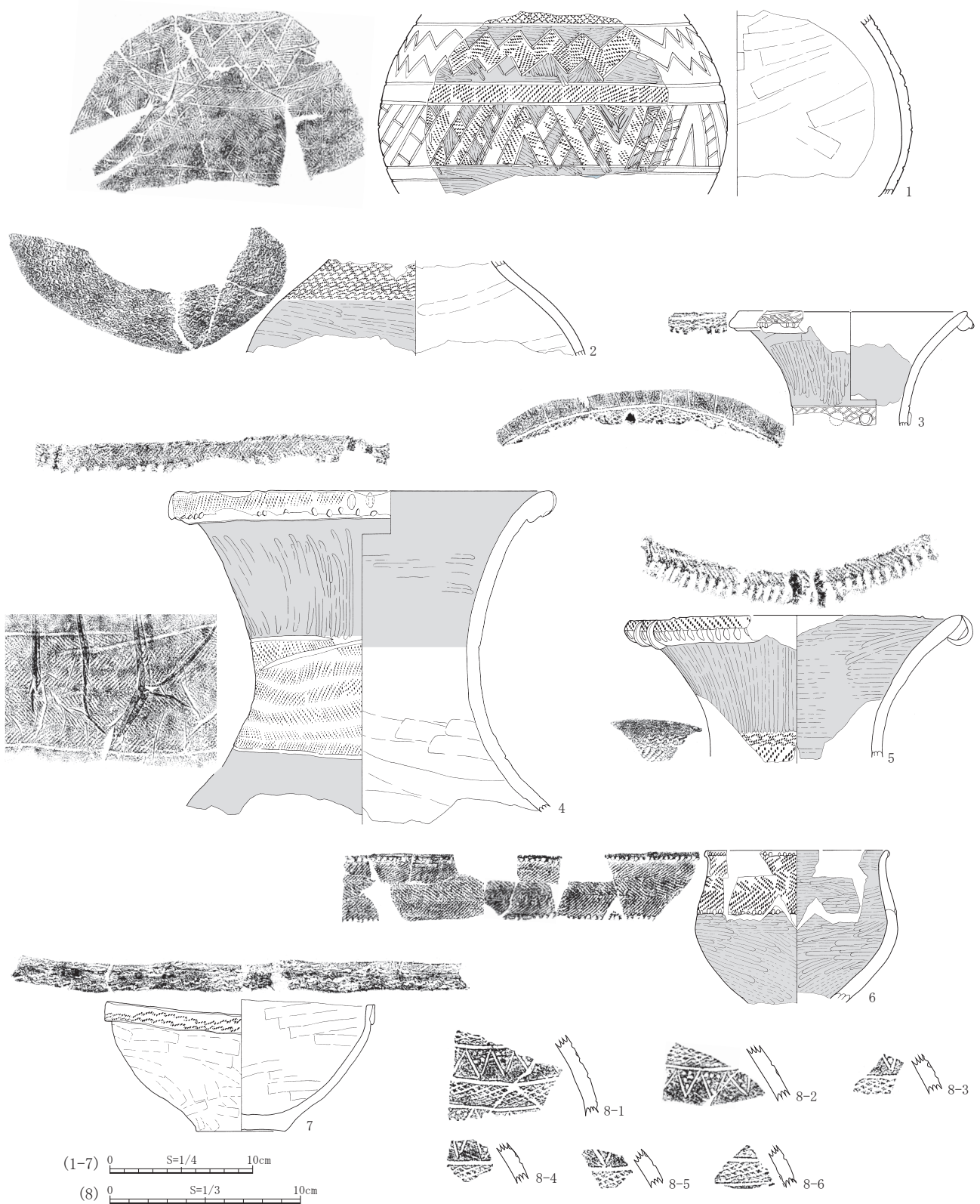
第6図 平沢遺跡 e 地点出土土器 b 類



第7図 平沢遺跡 e 地点出土土器 c 類

を含む印旛沼沿岸域の人々が東京湾沿岸域の土器を模倣して作ったか、あるいは東京湾沿岸域で作られたものが平沢遺跡に搬入されたかのいずれかであると考えられます。それでは、どちらの可能性の方が高いのでしょうか。それを考える上で重要なのが土器に混ぜ込まれたシャモットです。模倣の場合は土器に含まれている鉱物などが地元の土器と同じであるのに対し、搬入

の場合はそれが搬入元の土器と同じになると考えられます。a 類と d 類を比較すると、d 類にはシャモットが含まれている点が a 類と異なっています。さらに、シャモットが含まれている土器は東京湾沿岸に主に分布していますから、平沢遺跡で出土した d 類は東京湾沿岸で作られたものが搬入された可能性が高いと言えるでしょう。

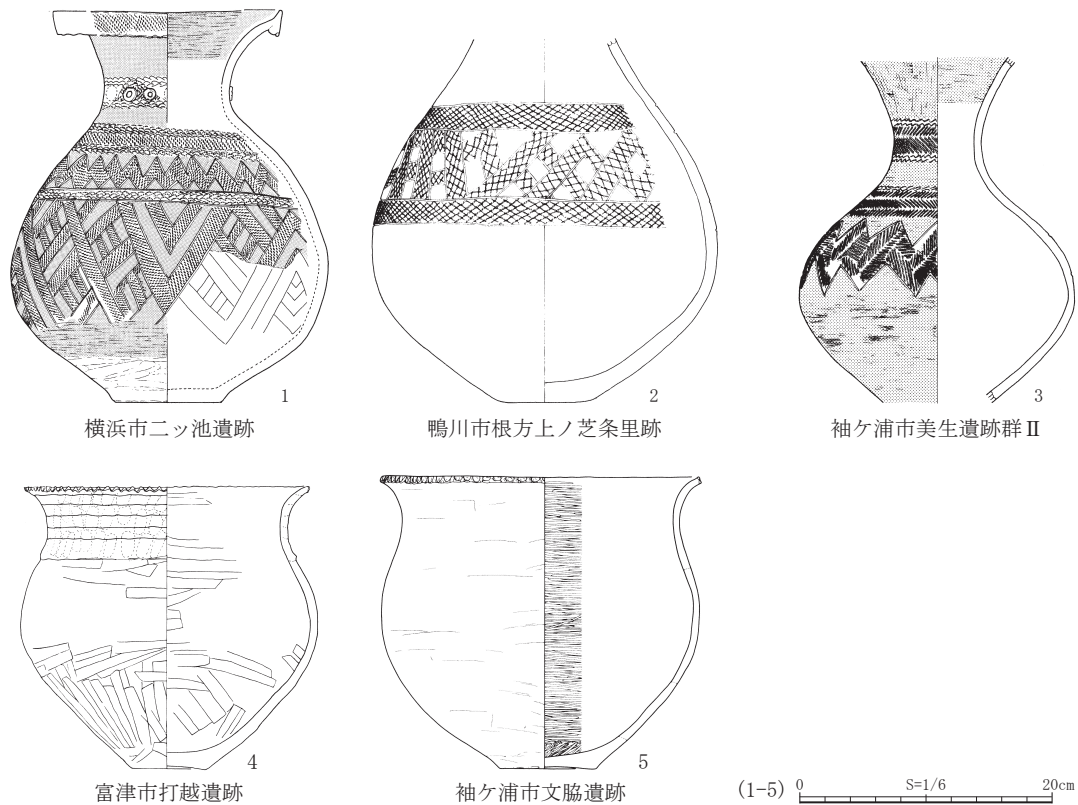


第8図 平沢遺跡 e 地点出土土器 d 類

ところで、東京湾沿岸域は文様の違いから3つの地域に分けられます。まず1つ目は横浜市域から大田区域にかけての地域です。ここでは羽状縄文うじょうじょうもんと附加条縄文すじじょうけつせつもん3種、S字状結節文を組

み合わせて複雑な文様を壺に施すのが特徴です(第9図1)。d類の中では第8図1がこの地域から搬入された可能性が高いものになります。

2つ目は安房地域から三浦半島にかけての地



横浜市ニッ池遺跡

鴨川市根方上ノ芝条里跡

袖ヶ浦市美生遺跡群Ⅱ

富津市打越遺跡

袖ヶ浦市文脇遺跡

(1-5) 0 S=1/6 20cm

第9図 地域間交流に関わる資料

域です。こちらも複雑な文様が施される点では横浜市域・大田区域と同様ですが、S字状結節文や附加条縄文3種による施文が中心で羽状縄文はあまり使われない点が異なっています(第9図2)。d類の中では第8図8がこの地域から搬入された可能性が高く、第8図2・3・7もその可能性があります。

3つ目の地域は市原市域から富津市域にかけての地域です。こちらは上述した2つの地域と異なり、羽状縄文を基調とした単純な文様が施される点が特徴となっています(第9図3)。d類の中では第8図4がこの地域から搬入された可能性がある土器と考えられます。

次にc類ですが、第9図4・5を見てわかるとおり、こちらもd類と同様に形態的な特徴は東京湾沿岸域に似ていると言えます。しかし、土器に含まれた鉱物などを観察すると、c類には東京湾沿岸域に特徴的なシャモットが含まれておらず、胎土の特徴はa類と変わるところがありません。したがって、c類は八千代市を含む印旛沼沿岸域で作られた模倣品である可能性

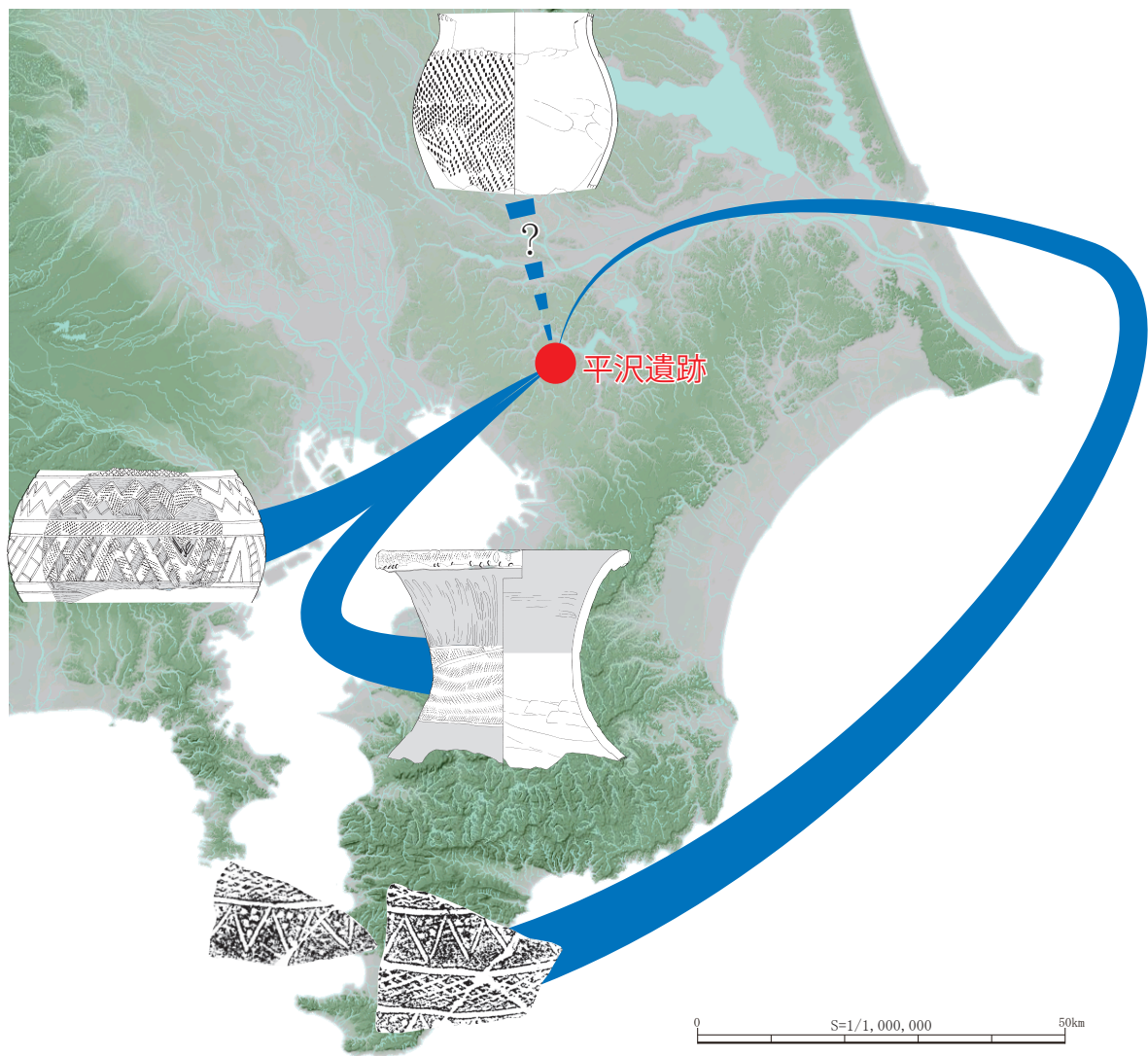
が高いと言えるでしょう。

最後にb類を見て行きましょう。b類は八千代市を含む印旛沼沿岸域において出土量が少なく、しかも整然とした附加条縄文1種や大粒の石英が多量に含まれているといった特徴があり、地元の土器であるa類とは異なります。したがって、これらの土器は他地域から搬入されたものとするのが妥当でしょう。それでは、このb類はどこで作られたのでしょうか。実はこの点が未だはっきりとはわかっていません。b類は手賀沼沿岸域や江戸川沿岸域でも少量見られ、広域に広がっていたことはたしかなのですが、b類が地元の土器として使われていた地域がはっきりとしないからです。ただし、附加条縄文1種を頻繁に使う地域としては印旛沼沿岸域以外に栃木県域と茨城県域が挙げられますから、これらの地域のいずれかから搬入されたことは間違いのないでしょう。

#### まとめ

ここまで見てきたように、遺物を分類し、分





第 10 図 平沢遺跡に搬入された土器の系譜

類されたものがいつの時代のものであり、どの地域に存在したのかを明らかにすることで初めて遺物は歴史的価値を持つようになります。今回は平沢遺跡出土弥生土器を文様や土器に含まれている鉱物などをもとに分類することで、平沢遺跡には地元の土器だけでなく、複数の地域から搬入されたものも存在したことを明らかにできました。また、搬入品だけでなく、模倣品が存在したこともわかりました。このことから、印旛沼沿岸域の人々は関東地方を行き交うことで、各地の人々と交流して搬入品を手に入れ、あるいは他地域で見た土器を模倣したと考えられます。こうした交流には海路も活発に使われていたと考えられますから、弥生人が船に

乗って東京湾や太平洋を縦横に行き交う光景が広がっていたものと考えられます。

埋（まい）やちよ No. 38  
 一千葉県八千代市埋蔵文化財通信—  
 平成 29 年 11 月 15 日  
 編集・発行 八千代市教育委員会  
 教育総務課 文化財班  
 八千代市大和田 138-2  
 ☎ 276-0045 ☎ 047(481)0304

